

close-up

令和3年度 第60回

# 農林水産祭



— 2022.3 —

公益財団法人 日本農林漁業振興会

# 第60回 農林水産祭式典

令和3年度（第60回）農林水産祭式典は、令和3年11月23日（火）に明治神宮会館において、各界の代表者、中央・地方の農林水産関係者、農林水産祭参加行事において農林水産大臣賞を受賞した優秀農林水産業者等約450名の方々が参加して行われました。

式典は、金子原二郎農林水産大臣の主催者挨拶の後、水産部門天皇杯受賞者の枕崎市漁業協同組合の市田恵八朗氏が収獲感謝の言葉を述べられ、次いで選賞審査報告と表彰状等の授与、祝電の披露等が行われ、最後に日本農林漁業振興会の中家徹理事長の閉会の挨拶により閉幕しました。

## 農林水産大臣挨拶（要旨）

農林水産祭式典を挙げるに当たり、主催者を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい折、多くの皆様方に御出席を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

昨年来、新型コロナウイルスの感染症により、農林水産業を含む我が国の経済・社会に大きな影響が生じております。影響を受けられた農林漁業者の皆様が、一日でも早く日常を取り戻せるよう全力で取り組んでまいります。

農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲の高揚を図るため、昭和三十七年から国民的な祭典として実施しており、今年で六十回目となります。この間、農林水産祭を支えていただいている関係者の皆様に敬意を表し、深く感謝申し上げます。

本日、天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞を受賞される皆様に対し、心からお慶び申し上げます。

我が国の農林水産業は、国民に食料を安定的に供給する役割を果たしながら、食品産業などと共に地域の経済を支えています。さらに、高品質な農林水産物、世界に評価される和食、美しい農山漁村の風景など、我が国の成長の糧となる大きな潜在力を有しているところであります。農林水産業を強くし、美しく豊かな農山漁村を次の世代に継承していくことが重要であると考えております。

天皇杯等三賞の受賞者をはじめ、全国の農林水産大臣賞の受賞者の取組は、地域の農林水産業、農山漁村の発展に大きく貢献してこられました。皆様方におかれましては、本日を契機に後進の方々の模範となってさらに御活躍いただくことを御期待申し上げます。

結びに、本日御出席の皆様方並びに全国の農林水産業に携わる方々の今後ますますの御発展と御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

令和三年十一月二十三日

農林水産大臣 金子原二郎



金子原二郎 農林水産大臣

## 《収獲感謝の言葉》



水産部門天皇杯受賞  
市田恵八朗氏

## 選賞審査報告 難波成任農林水産祭中央審査委員会会長

審査報告を申し上げます。

農林水産祭中央審査委員会では、令和2年7月から本年6月までの1年間に全国各地で開催されました207の農林水産祭参加表彰行事において、農林水産大臣賞を受賞されました346点を対象として書類審査および現地調査を行いました。その結果、7部門において、それぞれ天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の三賞の受賞者を決定いたしました。

また、「女性の活躍」について、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の二賞を選考いたしました。

受賞者の方々の業績のうち、私からは天皇杯受賞者の方々について特筆すべき点をご報告申し上げます。

農産・蚕糸部門の宮城県せんだいの農事組合法人仙台イーストカントリーは、東日本大震災で経営面積の3分の2が浸水し、機械・施設の大半を失いましたが、いち早く経営を再開し、消費者の多様なニーズに応えるため、水稻の多品種栽培や適期刈り取りによる品質向上に取り組んでいます。直播栽培や水位センサーによる遠隔水田の管理などに取り組み、生産コストの低減を実現しています。また、農家レストランや無添加味噌の製造など6次産業化に取り組むことで地域の復興に貢献しています。

園芸部門の北海道のきたみらい玉葱振興会は、8つのJAの合併に伴い誕生した組織で、全国屈指の玉ねぎ産地において「質と量」の向上のための取組を行っています。生産管理を徹底し品質の高位平準化を図るとともに、収穫関連の技術や機械の開発などにより単収や生産性を大きく向上させました。また、玉ねぎ価格の乱高下を抑えるため、加工業務用出荷の強化や生食用の市場出回り量をコントロールすることで安定的な市場の形成と経営の安定化を実現し、高水準の農業所得を確保しています。

畜産部門の鹿児島県の森岡ご夫妻は、自家産の優秀な繁殖牛による長命連産という技術的特色を持つ肉用牛繁殖経営を行っており、繁殖牛や子牛のきめ細かな管理と科学的分析に基づく栄養管理の適正化などにより、分娩間隔や子牛生産率で優れた繁殖成績を達成しています。また、牛の管理状況の「見える化」による情報共有や自給飼料の増産により繁殖牛への粗飼料自給率100%を実現しており、高い飼養管理技術の普及を通じて、地域の肉用牛振興にも大きく貢献しています。

林産部門の和歌山県の山長林業株式会社・山長商店株式会社は、周辺の森林所有者との共同で森林経営計画を樹立し、山林管理の集約化を図っています。架線集材の無線化や自動化に向けた技術開発など施業技術の発展に取り組むとともに、高品質のプレカット無垢材製品を首都圏の工務店に直接供給することで建築用材の高付加価値化を実現しています。森づくりから家づくりまでの一貫的な取組により産地の収益向上を図る経営手法は、多くの林業関係者や工務店が視察に訪れるなど、全国のモデルとなっています。

水産部門の鹿児島県の枕崎市漁業協同組合は、県立水産高校の課題研究授業として学生達が取り組んだ独創的なアイデアを盛り込み、水産加工業者などとの連携により、地元で水揚げされる高鮮度のカツオを使用した「かつおチップス」の商品開発に成功しました。地域が一丸となった取組は、地域の振興や水産高校の入学希望者増加に寄与するモデルケースとして、他地域に示唆を与えるものと高く評価されます。

多角化経営部門の長崎県の有限会社シュシュは、農産物直売所、農産物加工・販売、レストラン・カフェ、農家民泊、観光農園等、多角的に事業を展開しています。直売所では品切れ防止のため売上情報をタイムリーに配信し、また、加工用の農産物を相場より高値で買取ることで、農家の所得向上に寄与しています。年間49万人を集客するとともに、新規就農者への実習、従業員の8割を占める女性による商品開発などの人材育成と雇用創出で地域の活性化に大きく貢献しています。

むらづくり部門の熊本県の白糸第一自治振興会は、「通潤橋と棚田を活かした地域づくり」を掲げて活動し、棚田米のブランド化、通潤用水の保全活動、食や地域の歴史・環境に関する勉強会、ワークショップなどを実施しています。また、全国棚田サミットの開催を契機に都市と農村の交流活動を加速するとともに、熊本地震や豪雨災害後には、企業との連携により多くの都市住民とのボランティア活動を通じた交流活動を行うなど、水と環境に配慮した取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例となり得るものです。

内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞につきましても、「女性の活躍」による受賞を含め、それぞれ素晴らしい皆様方が受賞されました。

本日、受賞されました方々に心からお祝いを申し上げますとともに、こうした方々の先進的な取組みが全国に普及し、日本の農林水産業がさらに活性化することを祈念致しまして、審査報告といたします。



中央審査委員会  
会長 難波 成任 氏

## 天皇杯等三賞の表彰

天皇杯は、7部門の受賞者に対し金子原二郎農林水産大臣から賞状が、林良博（公財）日本農林漁業振興会会長から天皇杯が授与されました。引き続き、内閣総理大臣賞は、金子農林水産大臣から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与され、日本農林漁業振興会会長賞は、林会長から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与されました。



天皇杯受賞者



天皇杯の授与



内閣総理大臣賞受賞者



日本農林漁業振興会会長賞受賞者

## 祝辞、祝電等

天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の授与後に、内閣総理大臣岸田文雄様からのメッセージと衆議院議長細田博之様、参議院議長山東昭子様からのご祝電の披露がありました。また、多数の祝電のご紹介をいたしました。

## 大臣と三賞受賞者等との懇談会

例年行われる式典終了後の農林水産大臣等と三賞受賞者の皆様との懇談会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止となりました。

(例年の参加者：農林水産大臣ほか農林水産省幹部、日本農林漁業振興会会長、理事長ほか同役員、中央審査委員会会長ほか各分科会主査等)

# 天皇杯等三賞の選賞

令和3年度の天皇杯等三賞（天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞）の選賞審査は、7月1日に開催された農林水産祭中央審査委員会第1回総会を皮切りに、経営（兼多角化経営）、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、むらづくりの各分科会において行われました。令和2年7月から令和3年6月にかけて全国で開催された207の農林水産祭参加表彰行事で農林水産大臣賞を受賞された優秀農林水産業者346人（団体、夫婦連名を含む）を対象に、部門毎に書類審査と現地調査による厳正な審査が行われ、10月5日の中央審査委員会第2回総会において決定されるとともに、同6日農林水産省 Web サイトで公表されました。



農林水産祭中央審査委員会第2回総会

## 天皇杯等三賞選賞の結果

	部門	出品財	受賞者		表彰行事
			住所	氏名等	
天皇杯	農産・蚕糸	経営 (水稲、大豆、飼料米ほか)	宮城県仙台市	農事組合法人仙台イーストカントリー (代表 佐々木 均)	第50回日本農業賞
	園芸	経営 (玉ねぎ)	北海道北見市	きたみらい玉葱振興会 (代表 加藤 英樹)	第50回日本農業賞
	畜産	経営 (肉用牛繁殖)	鹿児島県曾於市	森岡 良輔* 森岡 恵理香*	令和2年度全国優良畜産経営管理技術発表会
	林産	経営 (林業経営)	和歌山県田辺市	山長林業株式会社・株式会社山長商店 (代表 榎本 長治)	全国林業経営推奨行事
	水産	産物 (水産加工品)	鹿児島県枕崎市	枕崎市漁業協同組合 (代表 市田 恵八朗)	鹿児島県漁業振興大会第54回水産物品評会
	多角化経営	経営 (6次産業化)	長崎県大村市	有限会社シュシュ (代表 山口 成美)	令和2年度6次産業化優良事例表彰
	むらづくり	むらづくり活動	熊本県 上益城郡山都町	白糸第一自治振興会 (代表 山村 伸吾)	第43回豊かなむらづくり全国表彰事業
内閣総理大臣賞	農産・蚕糸	経営 (麦類)	北海道網走市	オホーツク網走第23営農集団利用組合 (代表 安藤 俊浩)	令和2年度全国麦作共助会
	園芸	経営 (鉢花アジサイ)	鳥根県出雲市	鳥根県アジサイ研究会 (代表 多久和 敏男)	第50回日本農業賞
	畜産	経営 (稲 WCS、飼料用米、 稲 WCS 収穫受託)	愛知県 知多郡東浦町	有限会社あくりサービス (代表 小島 誉久)	第50回日本農業賞
	林産	技術・ほ場 (苗ほ)	岩手県二戸市	大森 茂男	令和2年度全国山林苗畑品評会
	水産	技術・ほ場 (資源管理・資源増殖)	山口県 大島郡周防大島町	山口県漁業協同組合浮島支店 (代表 平野 和生)	第26回全国青年・女性漁業者交流大会
	多角化経営	経営 (水稲、すいか、しいたけ ほか)	新潟県南魚沼市	有限会社小澤農場 (代表 小澤 実)	令和2年度全国優良経営体表彰
	むらづくり	むらづくり活動	福島県二本松市	企業組合さくらの郷 (代表 齋藤 寛一)	第43回豊かなむらづくり全国表彰事業
	農産・蚕糸	女性の活躍	鹿児島県出水市	澤田 たみ子	令和2年度農山漁村女性活躍表彰
日本農林漁業振興会会長賞	農産・蚕糸	経営 (繭)	栃木県小山市	五十畑 茂* 五十畑 啓子*	第9回蚕糸絹業提携 確立技術・経営コンクール
	園芸	経営 (ぶどう)	山梨県笛吹市	笛吹農業協同組合青果物生産団体連絡 協議会ハウスぶどう専門部会 (代表 矢野 幸人)	第22回全国果樹技術・経営コンクール
	畜産	経営 (養豚)	青森県 上北郡横浜町	有限会社飯田養豚場 (代表 飯田 一志)	令和2年度全国優良畜産経営管理技術発表会
	林産	経営 (林業経営)	福井県福井市	杉本 英夫* 杉本 淑美*	全国林業経営推奨行事
	水産	産物 (水産加工品)	和歌山県新宮市	株式会社高岡商店 (代表 高岡 陽市朗)	第31回全国水産加工品総合品質審査会
	多角化経営	経営 (イチゴ、イチジク、柑橘)	山口県 大島郡周防大島町	株式会社瀬戸内 ジャムズガーデン (代表 松嶋 匡史)	第50回日本農業賞
	むらづくり	むらづくり活動	福井県福井市	伊自良の里・食と農推進協議会 (代表 多野 太右エ門)	第43回豊かなむらづくり全国表彰事業
	多角化経営	女性の活躍	千葉県館山市	須藤 陽子	令和2年度農山漁村女性活躍表彰

(注) 氏名等の欄に\*を付したのは、夫婦連名で表彰するもの。

## 優秀農林水産業者に係るシンポジウム

農林水産祭の一環として、天皇杯等三賞受賞者の業績を広く普及することを目的として、東京都内及び地方において、シンポジウムを開催しています。

### 都 内 開 催

#### 【テーマ：東日本大震災の被災地から全国へ、多様な苗木を届ける生産者】（第27回）

令和3年12月9日（木）に東京都港区の石垣記念ホール（三会堂ビル）において、令和2年度林産部門で天皇杯を受賞された有限会社上原樹苗の業績を取り上げて、シンポジウムを開催しました。農林水産省大臣官房の青山技術総括審議官のご挨拶のあと、農林水産祭中央審査委員会林産分科会の鮫島主査による選賞審査報告、有限会社上原樹苗の上原社長による業績発表があり、引き続き、鮫島



業績発表の様子

主査の進行により、業績発表者に加え、中央審査委員会林産分科会の田中委員、年樹株式会社の星代表取締役、福島県林業研究センターの大槻森林環境部長、林野庁業務課の小口課長補佐による意見交換や参加者との質疑応答が行われました。シンポジウムは、行政関係者、農林関係団体、関連企業等など約60名（このほか、Web参加約40名）の参加の下、実施されました。



上原 和直 氏



鮫島 正浩 氏

#### 「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」（第27回）出席者

R3.12.9（敬称略）

区 分	氏 名	所 属・職 名 等
業績発表者	上原 和直	令和2年農林水産祭林産部門 天皇杯受賞者 有限会社上原樹苗 代表取締役
コーディネーター 及び選賞審査報告	鮫島 正浩	農林水産祭中央審査委員会 林産分科会主査 (信州大学工学部特任教授)
コメンテーター	田中 浩	公益財団法人国際緑化推進セン ター技術顧問
コメンテーター	星 比呂志	年樹株式会社代表取締役
コメンテーター	大槻 晃太	福島県林業研究センター 森林環境部長
コメンテーター	小口 真由美	林野庁国有林野部業務課 課長補佐（技術開発・普及担当）
挨 拶	青山 豊久	農林水産省大臣官房技術総括審 議官
司会・進行	小栗 邦夫	(公財)日本農林漁業振興会 常務理事



パネルディスカッションの様子

## 地方都市での開催

## 【大野あさり「調査に基づく資源管理手法の開発とブランド化」】(第28回)



下戸成 治美 氏

令和3年12月15日(水)に、広島県広島市において、令和2年度水産部門で天皇杯を受賞された前潟干潟研究会の業績に関するシンポジウムを開催しました。

水産庁研究指導課の廣野課長、広島県水産課の横内水産技術担当監からご挨拶を頂いたあと、中央審査委員会水産分科会の生田主査による選賞審査報告、前潟干潟研究会の下戸成会長による業績発表に引き続き、生田主査の進行により、コメンテーターと業績発表者による意見交換や参加者との質疑応答が行われました。

シンポジウムには、水産関係者、行政関係者など約50名(このほか、Web参加20名)の皆様にご参加いただきました。



パネルディスカッションの様子

## 「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」(第28回) 出席者

R3.12.15 (敬称略)

区分	氏名	所属・職名等
業績発表者	下戸成治美	令和2年度農林水産祭水産部門 天皇杯受賞 前潟干潟研究会 会長
コーディネーター 及び選賞審査報告	生田 和正	農林水産祭中央審査委員会水産 分科会主査 (国研)水産研究・教育機構フェロー)
コメンテーター	佐々木貴文	農林水産祭中央審査委員会経営 分科会専門委員 (北海道大学大学院水産科学研究 科准教授)
コメンテーター	浜口 昌巳	(国研)水産研究・教育機構水産 技術研究所 沿岸生態システム部主幹研究員
コメンテーター	戸井真一郎	広島県農林水産局水産課 水産振興グループリーダー主査
挨拶	廣野 淳 (代読 黒田 博之)	水産庁増進推進部研究指導課長 ( // 課長補佐)
	横内 昭一	広島県農林水産局水産課水産技術 担当監
司会・進行	小栗 邦夫	(公財)日本農林漁業振興会 常務理事

## オンラインでの開催

## 【「棚田」も「心」も潤して～167年守り続けた通潤魂、未来へ～】(第29回)

令和4年3月2日(水)に、令和3年度むらづくり部門で天皇杯を受賞された熊本県山都町の白糸第一自治振興会の業績に関するシンポジウムを開催しました。

九州農政局宮崎局長、熊本県農林水産部農村振興局の渡邊局長、山都町の梅田町長からご挨拶を頂いたあと、中央審査委員会むらづくり分科会の福与主査による選賞審査報告、白糸第一自治振興会の草野顧問と下田女性部顧問による業績発表に引き続き、福与主査の進行により、パネルディスカッションが行われました。

今回のシンポジウムは、オンライン配信のみでの開催となりましたが、むらづくり関係の団体、行政関係者など、全国各地から約60名の皆様にご参加いただきました。



オンライン配信の様子

## 「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」(第29回) 出席者

R4.3.2 (敬称略)

区分	氏名	所属・職名等
業績発表者	草野 昭治	令和3年度農林水産祭むらづくり 部門天皇杯受賞 白糸第一自治振興会 顧問
	下田 美鈴	令和3年度農林水産祭むらづくり 部門天皇杯受賞 白糸第一自治振興会 女性部顧問
コーディネーター 及び選賞審査報告	福与 徳文	農林水産祭中央審査委員会むら づくり分科会主査 (茨城大学農学部教授)
コメンテーター	畠山 智之	農林水産祭中央審査委員会 むらづくり分科会委員 (NHK放送研修センター 日本語センター エグゼクティブ アナウンサー)
コメンテーター	山下 裕作	熊本大学文学部教授
コメンテーター	梅田 穰	山都町長
挨拶	宮崎 敏行	農林水産省九州農政局長
	渡邊 昌明	熊本県農林水産部農村振興局長
	梅田 穰	山都町長
司会・進行	小栗 邦夫	(公財)日本農林漁業振興会 常務理事

## 天皇皇后両陛下への拝謁と業績説明（中止）

農林水産祭参加表彰行事において、7部門それぞれで最も優秀な農林水産業者として選定され、最高の栄誉に輝いた天皇杯受賞者は、例年、皇居宮殿において天皇皇后両陛下に拝謁し、お礼言上と業績説明を行っています。本年度は、昨年度延期となった令和2年度の受賞者と令和3年度の受賞者による拝謁と業績説明を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により首都圏等に「まん延防止等重点措置」が実施されたため、中止することになりました。

以下は、令和元年度の天皇皇后両陛下への拝謁及び業績説明の様子を紹介します。



天皇皇后両陛下への天皇杯受賞者のお礼言上

### 天皇皇后両陛下への業績説明

拝謁に引き続き、難波成任中央審査委員会会長及び菱沼義久農林水産省大臣官房技術総括審議官のご先導により、両陛下は、むらづくり部門、農産・蚕糸部門、園芸部門、畜産部門、林産部門、水産部門、多角化経営部門の順に、受賞者からそれぞれの業績について説明を受けられました。

各天皇杯受賞者のご説明に対して、両陛下から、展示物に関する技術や経営、生産状況等について多岐にわたるご下問があり、短い時間の中でそれぞれ温かい励ましのお言葉をいただきました。



農産・蚕糸部門の業績説明



園芸部門の業績説明

## 天皇杯受賞者の皇居特別参観・記念撮影〈令和元年度〉

拜謁・業績説明に先立ち、宮内庁担当者の案内により、皇居特別参観が行われ、宮殿、中庭、二重橋、道灌堀、賢所、生物学研究所（水田）、紅葉山御養蚕所等を参観しました。また、皇居宮殿東庭松の塔前において、天皇杯受賞者を囲んで記念撮影が行われました。



天皇杯受賞者を囲んで記念撮影

## 天皇杯と農林水産祭

1. 天皇杯は、スポーツ及び農林水産業の振興のため、特に業績のあった最優秀者に対して授与されるものであり、現在、30個の天皇杯が宮内庁を通じて所管団体に下賜されています。

2. 昭和37年11月、財団法人日本農林漁業振興会が農林省と共催する農業祭参加表彰行事において、部門別の最優秀者（農産、園芸、畜産、蚕糸、林産、水産）として選ばれた者に対して授与するものとして、6個の天皇杯が宮内庁を通じて、財団法人日本農林漁業振興会に下賜されました。

その後、昭和54年度から、農林水産祭参加表彰行事に新たに加えられたむらづくり部門の特に優秀なものに授与されるものとして、天皇杯が1個下賜されました。

なお、部門名については、現在、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくりの7部門となっています。

3. 天皇杯は毎年農林水産関係団体等が「農林水産祭参加行事」として開催する約300の表彰行事において農林水産大臣賞（約500点）を受賞した者の中から中央審査委員会の厳正な審査を経て選定されます。



## 令和3年度(第60回)農林水産祭「実りのフェスティバル」(中止)

農林水産祭「実りのフェスティバル」は、例年11月上中旬頃に秋篠宮皇嗣同妃殿下のご視察と多数の来場者のご参加の下、盛大に開催して参りましたが、令和3年度(第60回)につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年度に引き続き、中止することと致しました。

なお、「福祉施設への農林水産物の贈呈」につきましては、開催中止に拘わらず一部の出展者様のご厚志により東京善意銀行を通じて、引き続き、実施することができました。

### 令和3年度「福祉施設への農林水産物の贈呈」にご協力頂いた皆様

静岡県(静岡県温室農業協同組合)、全国花き振興協議会(日本生花商協会、日本花き卸売市場協会、全国花卸協会、日本花き生産協会、日本インドアグリーン協会、JFTD)

以下は、令和元年度の「実りのフェスティバル」の様子を紹介したものです。

池袋サンシャインシティにおいて開催いたしました。初日の開場に先立ち、秋篠宮皇嗣同妃両殿下がご来場され、加藤寛治農林水産副大臣をはじめとする関係者や各地のゆるキャラ、キャンペーンガール等がお出迎えしました。

令和元年度の7部門の天皇杯受賞者の業績を紹介するコーナーでは、写真パネルをご覧いただきながら、農林水産省の菱沼義久技術総括審議官から両殿下へ天皇杯受賞者の業績のご説明が行われ、引き続き、加藤農林水産副大臣、菱沼技術総括審議官、中家徹日本農林漁業振興会理事長ほかのご案内により、政府(農林水産省)特別展示、地域農林水産展(都道府県コーナー)、農林関係団体コーナーをご視察いただきました。

初日、2日目とも穏やかな天候に恵まれたことなどから、2日間で約41,000人と多くの皆様にご来場いただきました。



お出迎え



天皇杯コーナーご視察

### 政府(農林水産省)特別展示



両陛下ご即位記念コーナー



田んぼの水はどこからやってくる?



日本茶でおもてなし



海の恵みをいつまでも



棚田に恋

## 内閣総理大臣賞・日本農林漁業振興会会長賞の紹介

令和元年度農林水産祭天皇杯受賞者のパネル展示のほか、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の受賞者をパネルで展示紹介しました。



内閣総理大臣賞パネル



日本農林漁業振興会会長賞パネル

## 東日本大震災被災地復興支援コーナー

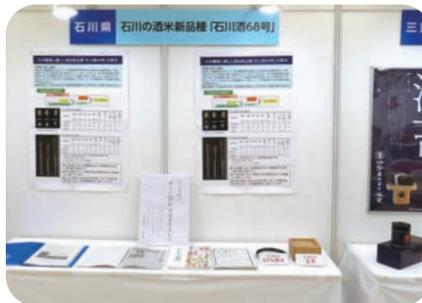
東日本大震災からの被災地の一日も早い復旧・復興を願い、会場内に被災地の農林水産物の展示、販売等を行うため、「東日本大震災被災地復興支援コーナー」を設置し、展示をしました。



(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会

## 都道府県技術・経営普及展

都道府県の独自性を有する農業技術や特徴ある農林水産物について、15道県の出展により実物、パネル等で展示紹介されました。



## 地域農林水産展（都道府県コーナー）

地域農林水産展（都道府県コーナー）では、全国各地の農林水産物の試食、試飲、販売が行われ、大勢の来場者で賑わいました。出展された33都道府県のうち、秋篠宮皇嗣同妃両殿下には、茨城県、東京都、福井県、愛知県、山口県、愛媛県、長崎県、北海道、山梨県、福岡県の順に10都道府県の担当部長等から出展产品のご説明を行いました。



ご視察：愛知県

地域農林水産展（都道府県コーナー）

■ ご視察該当都道府県



北海道



茨城県



東京都



山梨県



福井県



山口県



愛媛県



福岡県



長崎県

■ ご視察該当以外の出展県



青森県



岩手県



秋田県



山形県



福島県



栃木県



群馬県



埼玉県



千葉県



長野県



静岡県



富山県



石川県



岐阜県



三重県



和歌山県



徳島県



香川県



佐賀県



熊本県



大分県



宮崎県

会場風景



鹿児島県



農林水産関係団体コーナー

秋篠宮皇嗣同妃両殿下は、農林水産関係団体コーナー12団体のうち、「全国い生産団体連合会」並びに「全国農業協同組合中央会（JA広場）」をご視察されました。

また、来場者が参加できる体験コーナーやクイズ、試食・試飲が楽しめるコーナーなど各種の展示が行われ、賑わいました。



全国農業協同組合中央会



全国い生産団体連合会



全国食肉生活衛生同業組合連合会



(公財) 中央果実協会



(一社) 日本鯉節協会



(公財) 日本食肉消費総合センター



(一社) 日本畜産副産物協会



(公財) 日本特産農産物協会



(一社) 日本パインアップル缶詰協会



(一社) 日本ハンバーグ・ハンバーガー協会



(独) 農畜産業振興機構

体験、ふれあい

体験乗馬



ジャンボうさぎ



ゆるキャラ



農林水産物の贈呈（令和元年度）

◆贈呈ご協力道県・団体◆

農林水産祭を祝い、実りの喜びを分かち合うとの趣旨で、下記の8道県・2団体から提供された物品はフェスティバル終了後、東京善意銀行を通じて、福祉施設に贈呈されました。



北海道（JAグループ北海道（北海道中央会・北海道信連・ホクレン・北海道厚生連・共済連北海道）、秋田県（全農秋田県本部）、山形県、群馬県（坂井養蜂場、中村養蜂園、針塚農産、全農群馬県本部）、長野県（おいしい信州フードキャンペーン推進委員会）、静岡県（南駿茶業青年団、静岡県温室農業協同組合、静岡県椎茸産業振興協議会）、愛知県、大分県（全農大分県本部、大分県椎茸振興協議会、豊後別府湾ちりめん協議会）、JA全中、全国花き振興協議会（日本生花商協会、日本花き卸売市場協会、全国花卸協会、日本花き生産協会、日本インドアグリーン協会、JFTD）（順不同）



## 農林水産祭事業の概要

### 目的は

農林水産祭事業は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善と経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と（公財）日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施しています。

### 事業は

優秀農林水産業者に対して下賜された天皇杯等の授与と収穫を感謝する「農林水産祭式典」（例年11月23日に開催）と優秀農林水産業者の技術・経営の紹介、農林水産物の展示・即売等を中心とする「実りのフェスティバル」の2本柱で行われています。

### 実施体制は

農林水産祭を推進するための農林水産祭実行委員会、農林水産大臣賞の受賞者の中から特に優秀なものを天皇杯等三賞受賞者として選定する農林水産祭中央審査委員会等、多くの関係者の協力の下で実施しています。

### 財源は

国の補助金のほか、都道府県の負担金、農林水産関係団体の寄付金、経団連関係団体・企業の寄付金等、多くの皆様のご協力をいただいています。

### close-up

## 農林水産祭(通巻 第134号)

発行所 公益財団法人 日本農林漁業振興会

令和4年3月

本誌に掲載の記事、写真の無断転載を禁じます。  
令和4年度の農林水産祭スケジュールにつきましては、  
本会ホームページ等でお知らせする予定です。

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル7F  
TEL 03 (6441) 0791(代) FAX 03 (6441) 0792  
URL <http://www.affskk.jp>